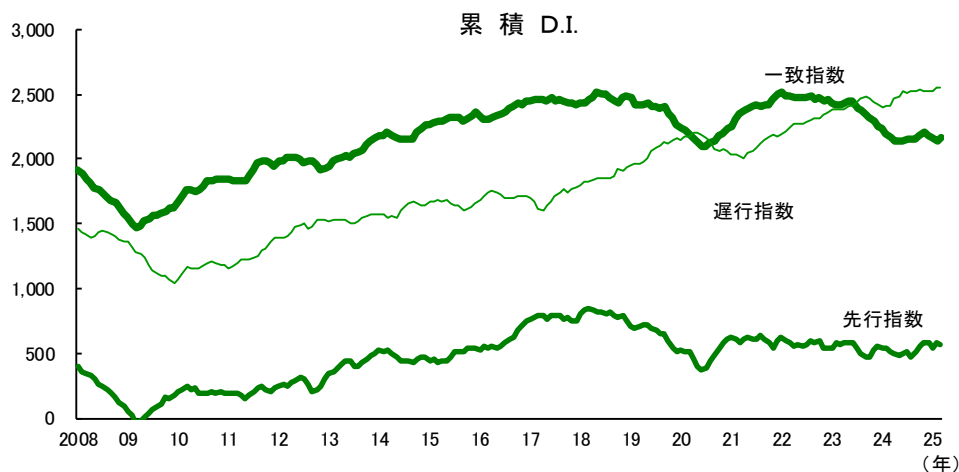


1. 景気動向指数

2025 年 3 月の景気動向一致指数は、県内企業業況判断 DI、鉱工業生産指数、鉱工業出荷指数、輸入通関実績（実質）、所定外労働時間数（製造業 30 人以上）の 5 項目がプラスとなり、全体で 78.6%と 4 カ月ぶりに 50.0%を上回った（7 項目のうちプラス 5）。

先行指数は、新規求人数（パートを含む）、鉱工業在庫率指数（逆）、ホテル・旅館宿泊客数の 3 項目がマイナスとなり、全体では 40.0%と 2 カ月ぶりに 50.0%を下回った（5 項目のうちマイナス 3）。

遅行指数は、鉱工業在庫指数、貸出約定平均金利の 2 項目がプラス、家計消費支出（勤労者世帯）、資本財出荷指数の 2 項目がマイナスとなり、全体では 50.0%と 2 カ月連続で 50.0%を上回った後、保合となった（5 項目のうちプラス 2、マイナス 2）。



注) 今月の累積DI=前月の累積DI+(今月のDI-50)

一致指数には1,000、遅行指数には600、先行指数には500をそれぞれ加算してある。

資料)宮崎県総合政策部統計調査課

採用景気指標	
先行 指数 (5項目)	1. 新規求人数(パート含む)
	2. 新車登録台数(乗用車)
	3. 鉱工業在庫率指数(逆)
	4. 新設住宅着工戸数
	5. ホテル・旅館宿泊客数
一致 指数 (7項目)	1. 有効求人倍率
	2. 県内企業業況判断DI
	3. 百貨店・スーパー販売額(実質)
	4. 鉱工業生産指数
	5. 鉱工業出荷指数
	6. 輸入通関実績(実質)
	7. 所定外労働時間数 (製造業30人以上)
遅行 指数 (5項目)	1. 鉱工業在庫指数
	2. 家計消費支出(勤労者世帯)
	3. 消費者物価指数 (持家の帰属家賃を除く総合)
	4. 資本財出荷指数
	5. 貸出約定平均金利

景気動向指数：景気に敏感な経済指標を複数取り上げ、それぞれの値を 3 カ月前の値と比較して増加したものの割合を出したもの。景気の現状を表す一致指数と、一致指数に数カ月先行して動き、景気の先行きを表す先行指数、数カ月遅れて動く遅行指数の 3 つがある。一致指数が数カ月連続して 50%を上回った場合、景気が上昇局面にあることを示す。

景気動向指数の算出方法

景気動向指数=(プラス項目数+横ばい項目数×0.5)÷(プラス項目数+横ばい項目数+マイナス項目数)×100(%)

2. 鉱工業生産

3 月の鉱工業生産指数は、86.0 で前年同月比 6.6%増と 13 カ月ぶりに前年を上回った。

主要業種別にみると、繊維（同 3.5%減）は前年を下回ったが、化学（同 18.4%増）、電子部品・デバイス（同 8.8%増）、食料品（同 3.8%増）が前年を上回った。

3. 建設関連

① 公共工事

5 月の公共工事請負金額は、123 億 92 百万円で前年同月比 35.4%減と 5 カ月連続で前年を下回った。

発注者別にみると、国が同 31.3%増、県が同 62.3%減、市町村が同 38.2%減、その他（独立行政法人等）が同 98.9%減となった。

② 着工建築物

4 月の着工建築物は、棟数は 214 棟で前年同月比 44.0%減、床面積は 4 万 5,408 ㎡で同 44.2%減となった。

内訳をみると、居住用は棟数が同 43.7%減、床面積が同 50.7%減となり、非居住用は棟数が同 45.5%減、床面積が同 34.7%減となった。

③ 住宅着工

4月の新設住宅着工戸数は、持家、貸家、分譲のいずれもが前年を下回った。県内合計は252戸で前年同月比55.4%減と3カ月ぶりに前年を下回った。

4. 個人消費関連

① 百貨店・スーパー販売動向

4月の百貨店・スーパー販売額は、57億2,600万円で前年同月比1.4%増と6カ月連続で前年を上回った。

商品別では、衣料品は8億3,100万円で同8.8%減、飲食料品は32億800万円で同4.6%増、その他計は16億8,800万円で同1.1%増となった。

② 乗用車新車販売動向

3月の乗用車新車登録台数は、2,188台で前年同月比9.0%増と3カ月連続で前年を上回った。

車種別にみると、普通車は1,529台で同3.2%増、小型車は659台で同25.3%増となった。

5. 消費者物価指数

4月の宮崎市の消費者物価指数は、112.2で前年同月比4.0%増だった。

6. 企業倒産

5月の企業倒産件数（負債額1,000万円以上）は5件（前年同月5件）で、前年同月と同水準だった。負債総額は5億9,400万円（同3億200万円）で3カ月連続で前年を上回った。

7. 雇用情勢

4月の有効求人倍率は、前月から0.02ポイント減の1.27倍となった。

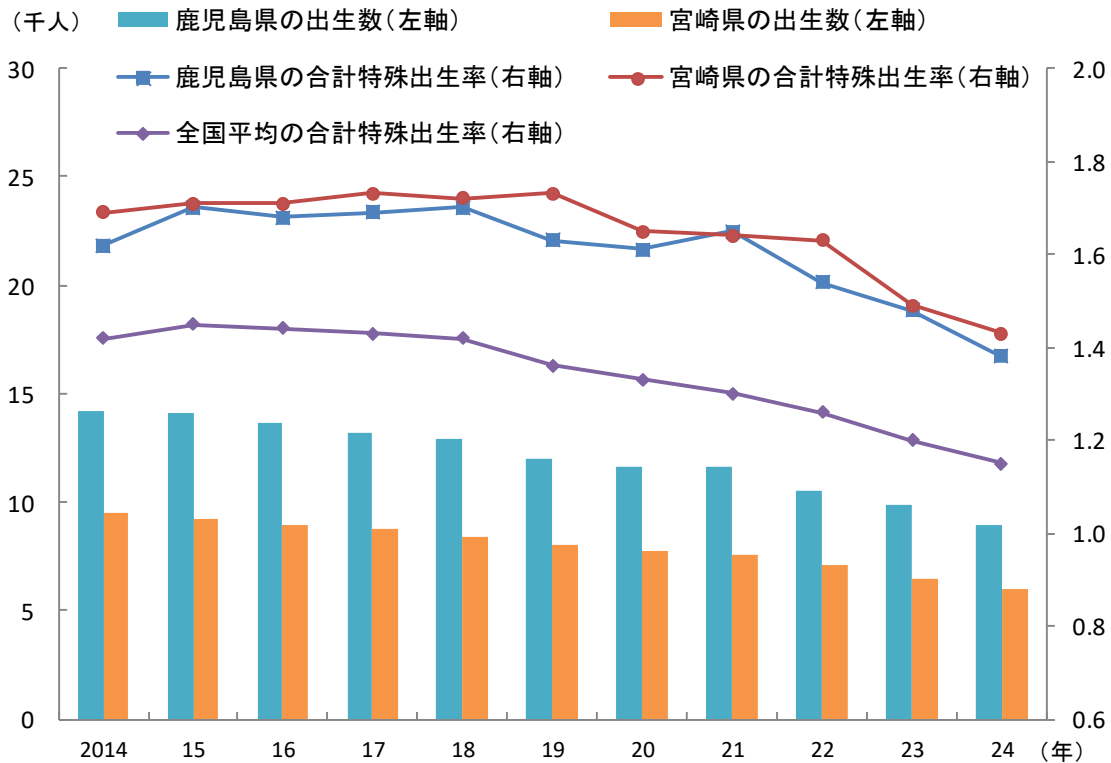
新規求人数は9,131人で前年同月比0.4%減になった。

雇用保険受給者数は、3,882人で同2.7%減となった。

〈今月のトピックス〉～合計特殊出生率と出生数

厚生労働省によると、2024 年の宮崎県の合計特殊出生率は 1.43 で前年を 0.06 ポイント下回った。ただ全国平均を 0.28 ポイント上回り、沖縄県（1.54）、福井県（1.46）に次いで全国で 3 番目に高かった（鳥取県、島根県も同率）。また、出生数は 6,000 人で前年比 502 人減少した。なお全国の出生数は 68 万 6,061 人で、前年比 4 万 1,227 人減少し、1899 年の統計開始以降初めて 70 万人を割った。

合計特殊出生率と出生数



資料)厚生労働省「人口動態調査」(24年は概数)